

かわさき区の宝物シート

宝物No.

25-4

あんもにあこうぎょうはっしょうのちきねんひ

「アンモニア工業発祥の地」記念碑(昭和電工)

エリア	田島地区	シーズン	通年
	扇町	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：昭和電工(株)川崎事業所

所在地	川崎区扇町5-1
問い合わせ	昭和電工(株)川崎事業所
TEL	044-322-6813 (代)
FAX	
E-mail	
URL	http://www.sdk.co.jp/
交通	JR川崎駅よりバス「昭和電工前」下車



基礎情報

- 川崎区扇町の埋立地竣工から3年後の昭和6年(1931)4月、現在の昭和電工(株)の前身、昭和肥料(株)の合成硫安(無機肥料)の製造工場が建設され、同月、日本初となる国産技術によるアンモニア合成に成功した。
- 当時、我が国では輸入技術に依存しなければ合成硫安の生産は不可能だと考えられていたため、このアンモニア合成の成功は、国内の化学工業の技術力の向上及び昭和初期の経済危機を突破する契機になった。
- 昭和電工(株)創業50周年となった昭和56年(1981)、先人たちの偉業を讃え記念碑が建立された。

由来・エピソード

- 現在の昭和電工(株)は昭和14年(1939)6月に昭和肥料(株)と日本電気工業(株)が合併して設立された会社である。昭和肥料(株)は味の素(株)創業者の鈴木三郎助が農民への安価な化学肥料の供給を目的に昭和3年(1928)に設立。日本電気工業(株)は、前身の日本沃度(株)が昭和9年(1934)1月に日本で始めてアルミニウムの精錬に成功し、同年3月に改称した会社。創業者の森轟祖(のぶてる)はかつて鈴木三郎助と沃度の原料である海藻の買い付けをめぐり、しのぎを削った関係であったが、経営危機に瀕した森を鈴木が救済したことから互いを認め合い、生涯にわたる良き朋友関係を築いたといわれる。鈴木は森の経営者・技術者としての才能を高く評価し、自身が設立した昭和肥料(株)の経営に森を専務として参加させた。
- 森轟祖の指導の下、昭和肥料(株)はガス圧縮機、循環機など国産技術と国産機械によってアンモニア合成に成功し、国産の合成硫安の製造を開始するに至った。そして8年後、昭和肥料と日本電気工業は合併し昭和電工(株)が誕生、森は初代社長に就任した。
- 工場建設用地として扇島埋立地が選ばれた理由は、①大容量の電力消費が可能であること、②大気や水の汚染、高圧ガスの爆発などの危険に対し安全性が高いこと、③原料(硫化鉬)と製品の輸送に便利なこと、④製品の消費地に近いこと、などが挙げられる。

補足・その他

- 見学会開催時のみ公開。
- アンモニア製造の成功以来、同社は有機・無機化学品分野の製品開発・製造の長い伝統を有し、汎用工業ガス・医療用ガス・工業薬品はもとより、近年では半導体産業向けの高純度ガス・薬品など多岐にわたる製品を提供し続けている。さらに半導体産業の海外シフトに対応した製品・装置の海外展開も推進し、現在までに台湾、上海、シンガポール等の海外拠点をすでに確立している。

関連シート

- (25-1)昭和電工(株)川崎事業所本事務所
- (25-2)1250HP圧縮機(昭和電工)
- (25-3)ガス循環機(昭和電工)